

診療科ダイジェスト

歯科口腔外科



地域の健康、歯科と医科の連携を支えます

がん治療時の口腔合併症予防を期待する 周術期口腔機能管理とは

歯科口腔外科部長 西田 哲也



以前より気管挿管中の患者における誤嚥性肺炎の抑制には口腔ケアが有効だとして、院内に歯科のない病院においても看護師を中心としてICUなどの病棟では定期的な口腔衛生管理が行われてきました。

2010年のがん対策基本法の改正と、それに伴い2012年に策定されたがん対策推進基本計画に「医科歯科連携による口腔ケアの推進」が盛り込まれたこともあり、2012年度の歯科の診療報酬改定で周術期口腔機能管理が保険導入されるに至りました。

ここでいう「周術期」とは全身麻酔の手術前後をさすだけでなく、化学療法や放射線療法などを含めた侵襲的治療全般と緩和ケアも含めた期間のことを指しており、具体的には、図に示すような患者が対象となっています。(図1)

これらの時期に歯科が介入することにより患者の口腔衛生状態や口腔内の状態等の把握をし、口腔に関わるすべての合併症・有害事象を回避予防し、原疾患に対する治療の完遂、患者のQOL向上などを主な目的とするものが周術期口腔機能管理であります。(図2)

図1

周術期等口腔機能管理の対象

- ・ 頭頸部領域、呼吸器領域、消化器領域等の悪性腫瘍の手術
- ・ 心臓血管外科手術
- ・ 人工股関節置換術等の整形外科手術
- ・ 臓器移植手術
- ・ 造血幹細胞移植
- ・ 脳卒中に対する手術
- ・ がん等に係る放射線治療もしくは化学療法を実施している患者
- ・ 緩和ケアの対象となる患者

図2

歯科介入により予防できることが期待される口腔由来の合併症

| | |
|---------|--------------------------------------|
| がん手術 | 手術部位感染 / 術後肺炎 (誤嚥性肺炎) |
| がん放射線治療 | 口内炎 / 放射線性顎骨壊死 |
| がん化学療法 | 菌性感染症に起因する全身性感染症 / 口内炎 / 薬剤関連顎骨壊死 |
| 心臓手術 | 感染性心内膜炎 |
| 臓器移植手術 | 菌性感染症に起因する全身性感染症 |
| 緩和医療 | 終末期における口腔トラブル (口内炎、口腔乾燥など) |
| その他 | 挿管時の動揺歯の脱落予防 / QOLの維持向上 / 早期の経口摂食の支援 |

エビデンスに基づいた周術期口腔機能管理 梅田正博ら

当科では、2012年当初から取り組みをはじめており、昨年(令和3年)は1年間で498例の口腔管理をおこなっております。呼吸器、消化器、泌尿器、婦人科領域等の悪性腫瘍の手術および化学療法をされている患者が主な対象となっており、各診療科主治医の先生からの院内紹介をいただき口腔機能管理の介入をしております。

歯科の初診時には、「なぜ手術や化学療法をするのにあたり歯科受診が必要なのか。」と疑問を持たれて歯科受診される方も多く、初診時には歯科パノラマレントゲン写真を撮影し、口腔衛生状態や口腔内の状態等を説明の上、作成したパンフレットをお渡しして歯科が介入することの意義を理解いただいております。(図3)

図3

お口のケア

がん治療をはじめるかたへ

口は呼吸、会話、食事のためになくてはならない器官です。
また、口は体の入り口であり、様々な細菌やウイルスの入り口でもあります。

手術や様々ながんの治療で、栄養状態や体の抵抗力の低下により口の中の細菌やウイルスが肺に侵入して肺炎をおこしたり口内炎やお口の腫れがひどくなると痛みのために会話をしたり、食べたり、飲んだりすることが難しくなりがん治療そのものを延期や中止せざるえなくなる可能性があります。

がん治療の前から正しいお口のケアを行うことでこのようなトラブルを予防することができれば、治療中もおおいしく食事をしたり楽しく会話することができ免疫力を高めることにもつながります。



日頃より定期的な歯科受診をされておられる方も多く、治療までに期間があればかかりつけ歯科医院での全顎的な清掃をしていただくことをすすめ、手術前後の入院中あるいは化学療法の実施期間中は当科にて有害事象の有無をチェックすることとしております。

周術期口腔機能管理の有効性に関する直接的なエビデンスは倫理面からも証明することは著しく困難と思われませんが、臨床研究も各施設でなされており徐々にではありますが手術後肺炎の発症頻度の低下、術後在院日数の短縮、抗菌薬投与期間の短縮、術後早期の摂食の開始などといった報告がされるようになってきました。(図4)

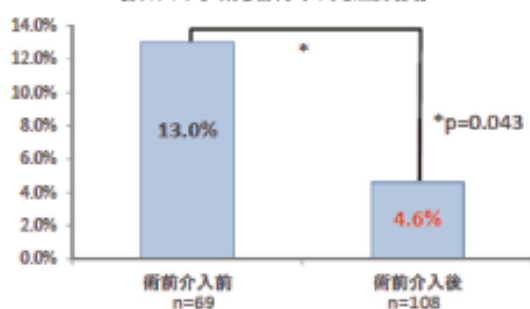
今後、歯科医学的な観点からみた最大の課題は、歯周病の管理や口腔清掃の仕方、う歯や保存不良歯牙への対処などの標準化と合併症予防に有効であるとするエビデンスの検証と思われま。

超高齢化社会をむかえるにあたり、歯科単独ではなく医科歯科連携を主軸としたチーム医療の推進、機能分化、病診連携に代表される地域包括医療を見据えたシステムの構築は急務であると考えられますが、周術期口腔機能管理はこれに先駆けて整備されたモデルと位置づけられ、地域の先生方と今後一層の連携強化を進めてまいりたいと考えております。

図4

周術期口腔機能管理に関する研究

- 〈歯科医師の術前・術後の口腔ケア等の介入による効果〉
(肺がん手術後肺炎の発症頻度)



岡山大学病院 周術期口腔機能管理センター

- 口腔悪性腫瘍患者における口腔機能の管理による放射線治療患者の在院日数に対する短縮効果
- 口腔悪性腫瘍患者における口腔機能の管理による抗菌薬投与期間の短縮
- 口腔機能の管理が術後の回復過程に及ぼす効果 (心臓血管外科術後 CRP 値)
- など